

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット4)

事業所番号	0171400146		
法人名	社会福祉法人敬聖会		
事業所名	グループホームききょう(幸ユニット)		
所在地	北海道函館市桔梗町557番地		
自己評価作成日	平成29年11月13日	評価結果市町村受理日	平成30年2月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&ijyosyoCd=0171400146-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	平成29年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や職員が生活を共にするという考えを大切に、ゆったりとした空間であるよう努めている。加齢による心身の変化についても事業所看護師、敷地内の協力病院と密に連携を取りとれる限り本人と家族の意向に沿って対応できるように努めている。ケアの質の向上を目的に、職員個々のレベルに応じた研修へ参加したり内部研修を行い、スキルアップに励んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、函館市の北方向に位置する桔梗町の丘陵地にある2階建て4ユニットのグループホームである。敷地内には、法人グループ内の医療機関や老人保健施設、ケアハウスがあり、自然に囲まれ、函館山や市内が一望できる見晴らしのいい場所である。運営法人は、医療法人を母体として、社会福祉法人にてケアハウスとグループホームを運営しており、当事業所は介護保険制度開始後に間もなく開設したグループホームで、24時間の医療支援体制を構築している事業所である。ホーム内は、1フロア2ユニットでの2階建ての4ユニットで、廊下が幅広く玄関を挟んで左右対称にユニットがあり、利用者がユニット間で往来し、冬期間などは広いホーム内の散歩が多い。居間には畳の上上がりの和のスペースもあり、ゆったりとした寛ぎのリビングである。居室にはトイレと洗面台も設置しておりプライバシーに配慮している。また、介護の業務記録はモバイル活用のICT化をいち早く導入し、職員の負担軽減にも配慮している。笑顔で、利用者ひとり一人に寄り添ったケアに努めているホームで、認知症高齢者介護の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示し、常に確認できるようにしている。事例に対して迷いが生じたときには、理念を振り返り、目標を共有するよう心掛けている。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、利用者や家族にも周知しており、職員は内部研修で確認しながら共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ヤクルトの訪問販売や通期の訪問販売に来ていただき、世間話をしながら買い物をしている。スーパーや飲食店、美容室を利用し交流の機会を持っている。	事業所主催の夏祭りやお花見に家族や地域の方が参加しており、隣接したケアハウスの夏祭りには子供の参加もあり交流している。また、町内の花壇に水やりや地元商店での買い物、専門学校や認知症実践者研修の実習生受け入れなども行って交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やお花見、夏祭り等にご家族や町内の方に参加していただき、実際の生活の様子や支援の方法を知っていただける機会としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではユニットごとに生活の様子や困難事例について報告したり、行事の様子を動画で見えていただき、意見を頂けるよう働きかけている。	運営推進会議は、地域包括支援センター担当者や地域の方、家族が参加して定期的に開催し、運営状況の報告や意見交換等を行いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催しサービス向上に活かしているが、議事録について、会議の内容が家族にわかり易く理解できるよう工夫することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に連絡を取り、困ったことについてアドバイスをいただいたり、協力していただいている。	地域包括支援センター担当者は運営推進会議に参加しており、意見交換している。市保護課とは、困難な事例も含め特に情報交換して協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間は施錠しているがその他の時間帯は施錠していない。身体拘束については研修にて学び、事業所に戻って確認している。	身体拘束をしないケアについては、指針やマニュアルを整備して、合同研修が年1回あり、定期的に学び身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングにて虐待について学ぶ機会を持ち、日頃のケアと照らし合わせて未然防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、そこで学んだものを勉強会、ミーティングでスタッフと共有し、必要性のある利用者がいた場合には対応できるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退居時に不安や疑問点を話せるよう、家族や利用者のペースで話し合いを進め、わかりやすい説明を行えるよう努力している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置のほか、面会時を中心に意見をうかがえるよう努めている。	ホーム便りを年4回発行して、運営状況や利用者の状況を家族へ報告している。玄関に意見箱を設置して、家族などの意見や要望を聞く機会としているが、殆どは家族が来所時に聞き取ることが多く、その内容は運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、ミーティングにて意見等提案できる機会を設け、反映できるよう努力している。	ユニット会議や主任ミーティングを毎月1回行って、ホーム長による個人面談は適時に実施しており、毎日の申し送りに含め職員からの意見や提案を聞く機会として、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長はできる限りホームに顔を出し、利用者の現状や職場環境の現状を把握し、整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベル、経験年数に応じて研修に参加してもらったり、勉強会を開いている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会に積極的に参加をし、意見交換や事例について話す機会としている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に会話の中から困っていることや要望等を汲み取れるようにし、安心を確保できるように心掛けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談や、見学の段階で不安や要望をよくお聞きし、一緒に意向に沿える方法を考えるよう努めている。難しい場合もあいまいにせず伝えることで、信頼頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で、何を必要としているのかを見極め、どのようなサービス内容が合っているのかを考えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは行ってもらえるような場面づくりをし、自然と役割が持てるような働きかけで相互に支え合っていける関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の情報をいただいたり、近況報告をして一緒に現状を見直していけるよう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴の把握に努め、なじみの関係が途切れないよう、友人にも面会に来ていただいたり、暮らしていた家に行ってみたり通っていた美容室へ行ったりしている。	知人や友人は時々来訪して楽しいひと時を過ごしている。以前暮らしていた家や墓参りなどは家族と一緒にしているが、美容室など馴染みの店は職員が同行して関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せず関わり合いが持てるよう、スタッフが介入したり、ソファの配置を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお見舞いに行ったり、近況について聞く機会を持つなどし、必要に応じて支援できるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話しできる方には意見を聞く。伝えられない方には行動や言動からアセスメントし、希望を汲み取れるよう努めている。	話せる方には好きな食べ物などを聞いて、思いを把握している。困難な方には、日々の暮らしの中での行動や言動からアセスメントして、意向を把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでの暮らし方についてできるだけ把握し、これまで利用していたサービスについても事業所から経過をいただくなど、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやミーティングなどにて共有し、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のミーティングにて、計画作成担当者を含めてモニタリングをし、家族からの意向も聞きながら介護計画を立てている。	利用者毎の担当者制で、担当者が原案をまとめて、月1回のユニットミーティングにて全体でモニタリングを行い、計画作成担当者が家族の意見や要望も聞いて、現状に沿った介護計画を作成している。見直しは4ヶ月サイクルとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をベースに、気づきや工夫は連絡ノートやアセスメント用紙に記入しモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態が変わった時にはアセスメントをし直し、柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の移動販売や、ヤクルトの訪問、出張理美容などの利用、行事にはボランティアに来ていただき楽しみの時間を持てるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院にて定期的に主治医の診察を受け、家族へも報告し、希望を大切にしながら医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関による月1回の職員同行にての定期受診と常勤看護師による24時間体制で、適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化があった時には看護師に連絡をし、指示をもらい対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の環境の変化を少しでも和らげることができるよう、頻りに顔を見に行ったり病院関係者と情報交換をし、状態によっては早期退院できるようカンファレンスに参加するなどして関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	医師の指示のもと家族と話し合い、ホームでできることなどについては指針をもとに説明、相談しながら進めていけるようにしている。	重度化や終末期についての対応方針は、入居契約時に説明して同意を得ており、重度化した時に再度打ち合わせして対応する事としているが、現状では最終的に医療機関への意向が殆どとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者について起こりうる急変を想定し、勉強会を開いて共有するほか、AEDの使用方法や応急処置についての講習を受けるなどして備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会いのもと、日勤帯、夜勤帯の避難訓練を行っている。近隣の施設の協力は得られるが、体制作りが必要。	避難訓練は、消防署の指導の下、マニュアルを整備して、定期的実施している。また、備蓄や備品も整備して、災害対策を行っている。	避難訓練を定期的に行い、備蓄や備品も整備して災害対策を行っているが、隣接の施設と連携して避難訓練を行うなど地域との協力体制を築いて災害対策を行うよう期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失敗に対してはさりげなく対応するなどし、利用者の人格を尊重し、誇りを損ねないように配慮している。	人格の尊重やプライバシーの確保については、定期的に合同研修会で職員が学んでおり、人格を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力やレベルに応じた声掛けをし、必要であれば選択肢を用意するなどし、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者の意思や希望を大切にし、できる限り時間に縛られずに生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服や、これまで通りにおしゃれができるよう、また、理美容は定期的もしくは希望時に利用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に配膳を行ったり、献立表の他に次の食事のメニューをホワイトボードに書き出してもらうことで、話題や楽しみとなるようにしているほか、好みのものを手作りして食べる機会を作るなどしている。	食事は隣接した施設の委託となっており、盛付や温めて配膳している。利用者も一緒に配膳や後片付けをしている。おやつは手作りのケーキや行事食の誕生日には好きなものを食べたり、たこ焼きパーティーなど楽しみな食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量は個々の習慣や状態を踏まえてチェックし、申し送りにて共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に合わせて歯ブラシ、舌ブラシ、スポンジ等を使用し口腔ケアを行っている。入れ歯洗浄剤も使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、タイミングを見てトイレ誘導を行っている。	居室にトイレと洗面台があるため、自立している利用者以外の方は、個々の排泄パターンを把握し、職員間で共有して、仕草や表情を見ながらトイレへ誘導して、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維など、個人に合ったものを探し、取り入れるようにしている。また、体を動かす機会を作ったり、難しい場合には腹部マッサージを行うようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	できるだけ希望時に入っていたり、浴室の準備をしている。	浴室は広くて、浴槽も大きくゆったりと入浴できる。入浴は週2回だが、朝風呂に入る方など利用者個々の希望に沿った入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時の状態に応じて、日中でも少し休んでいただいたり、消灯時間にこだわらず過ごしていただくなど柔軟にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方については医師や看護師から説明を受けるほか、最新の処方箋はすぐに見られるところに置き、理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や嗜好を大切に、関連した役割をGHでも見つけていけるように努めている。気分転換にしても、外出、食事、体操などその方の好みに合わせている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいところの希望を探り、函館山、住んでいた家、大沼、農園、どんと焼きなどへ出かけ、喜んでいただけた。農園では農家の方に協力していただきりんご狩りをさせていただいた。	日常的に敷地内や隣接した施設周辺を散歩している。外出行事は、りんご狩りや紅葉狩り、函館山、昆布館などユニット毎の外出支援を行っている。ホーム全体の行事としては、家族も参加する盛大な夏祭りがあり、子供たちによる巴太鼓の演奏や食べて、飲んで、歌っての楽しい催しの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には本人で持っていたいでいる。また、普段は預かりの方にも、外出時は手に持ってもらい自ら支払いをする機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を掛けられたり、手紙のやりとりができるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快とならないよう、音や光、温度等には注意を払っている。季節の飾りつけを利用者と相談したり一緒に居心地良く過ごせるようにしている。	共用空間のリビングや食堂はゆったりと広く、畳のコーナーもあり、採光や風通しもよく、丘陵地にあるため、大きな窓からの眺望もよく、季節が感じられる空間である。季節の飾り物や自然な飾り物など清潔感があり居心地よく過ごせるよう配慮している、玄関外にはベンチと菜園があり、利用者の楽しい実りの収穫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者と関わられる空間と、少し離れた空間を作り思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から使い慣れたものを持ってきていただけるようお願いしている。家族が写真を持ってきて飾ることも自由に行わせている。	居室には、トイレと洗面台、大きな収納や棚もあり配慮している。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前の表札の個々の飾りや写真を貼ったり、居室カーベットの色を交互に変えてわかりやすくしている。利用者の導線に余計なものを置かず、使用しているものは見えやすいところに置くなどの工夫をしている。		